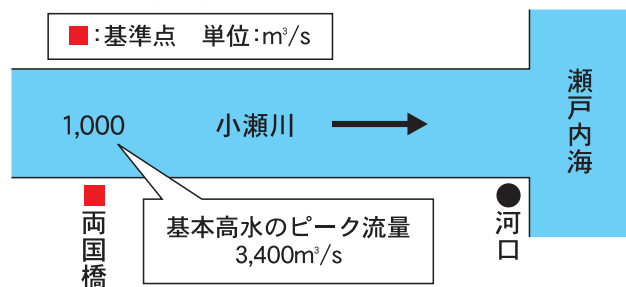


小瀬川水系河川整備基本方針

小瀬川水系工事実施基本計画策定(S49)後に計画を上回る洪水は発生していませんが、災害発生の防止または軽減のために、既往洪水による検証等を行った結果、計画高水流量を基準地点両国橋で1,000m³/sに設定し、基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存の洪水調節施設により対応することとしています。また、小瀬川の豊かな自然環境に配慮しながら、堤防の新設や質的強化、河道掘削、護岸整備等を実施します。



注) 計画高水流量(洪水調節で洪水量を調節した水量), 基本高水流量(洪水調節施設が無い場合の洪水量)

小瀬川の治水

小瀬川における過去の洪水は、主として台風起因して発生しています。昭和26年のルース台風以降は、河川整備の進展や小瀬川ダムおよび弥栄ダムの完成により大きな災害は発生していませんが、小規模の浸水被害は頻発しており、さらなる対策が望まれています。



昭和26年10月ルース台風による浸水(大竹市西栄)

年月日	ピーク流量 (m ³ /s)	原因
昭和20年 9月17日	1,340	枕崎台風
昭和25年 9月13日	2,000	キジャ台風
昭和26年10月14日	2,100	ルース台風
昭和44年 7月	980	梅雨前線
昭和45年 8月15日	930	台風9号
昭和49年 9月 8日	1,140	台風18号
昭和51年 9月13日	1,670	台風17号
平成17年 9月 6日	2,750	台風14号

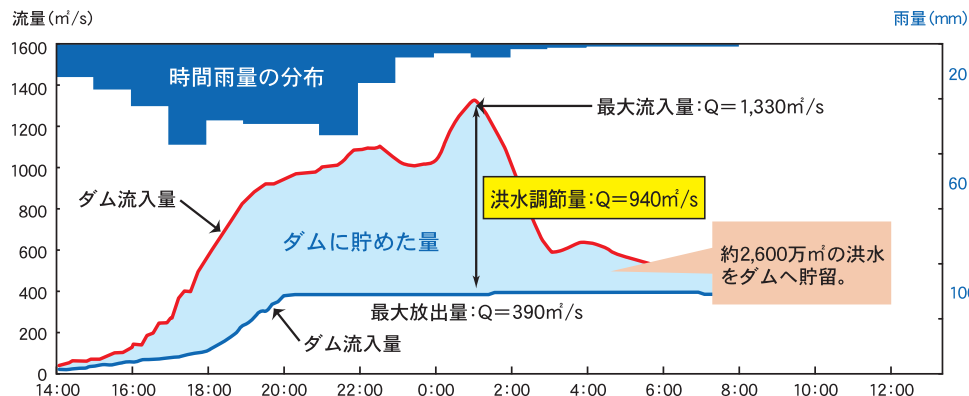
平成3年4月 弥栄ダム完成(ピーク水量:ダム及びはん濫が無かった場合の両国橋地点の推算地)
注: 昭和44年以前(両国橋流量観測前)は「流出計算による推算値」、昭和44年以降は「ダム・はん濫戻しの推算値」。

弥栄ダムの効果

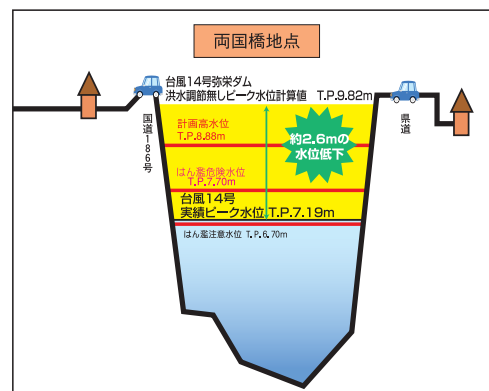
平成17年9月の台風14号は、小瀬川で既往最大洪水を記録しました。しかし、平成3年に完成した弥栄ダムにより、ダム地点流入量の約7割(940m³/s)を洪水調節し、下流域の洪水はん濫を防止することができました。

もし、弥栄ダムが無ければ、両国橋地点で実際より2.63mも高い水位となるなど、各所で計画高水位を上回る洪水となり、河口部の大竹市等を中心に約2,800戸、約250haが浸水被害を受けたものと推定されます。

弥栄ダムの操作状況(H17.9.6~7)



両国橋地点における水位低減効果



両国橋



岩国市小瀬地区および大竹市木野地区にかかる両国橋(広島・山口両県管理)を架け替え、川の断面を広くし堤防を築くことにより、洪水を安全に流下させることとしています。